

令和4年度 神戸大学附属図書館資料展



古典籍でみる 鎖国下の漂流



左上：『漂流記』 右上：『朝鮮漂流日記』 左下：『海外異聞』 右下：『魯西亜國物語』

【入場無料】

前期:令和4年10月14日（金）～11月10日（木）

後期:令和4年11月16日（水）～12月20日（火）



【会場】 神戸大学附属図書館 社会科学系図書館<2階 展示ホール>
(〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1)

【時間】 月～金/8:45～20:00 (ただし祝日は休館)
土・日/10:00～18:00

【交通】 阪神「御影」・JR「六甲道」・阪急「六甲」の各駅から
市バス36系統「神大正門前」下車 キャンパス内を北へ徒歩約5分

【お問合せ】 神戸大学附属図書館 情報リテラシー係
TEL: 078-803-5313
E-mail: literacy@lib.kobe-u.ac.jp

※マスク着用、手指消毒をお願いいたします。

※今後の新型コロナウイルス感染状況を踏まえて、日程等変更、開催中止となる場合がございます。

※本学在籍以外の方は、資料展観覧以外の目的での入館はできません。



知・人・共創と協働



120th ANNIVERSARY

古典籍でみる 鎖国下の漂流

神戸大学は、教育・研究とならぶ使命として、地域・社会との連携協力にも力を注いでいます。附属図書館においても、所蔵する貴重な資料を多くの皆様にご覧いただきたいと考え、平成16年度から資料展示活動を実施しています。新型コロナウイルス感染症の影響により中断していましたが、このたび3年ぶりに会場にて開催いたします。

江戸時代には、鎖国体制の一方で海難事故が多発し、外国や離島への漂流が発生しました。今回は、困難を乗り越え帰国した漂流者の事例と記録のいくつかを、当館の海運海事史関係資料コレクションである「住田文庫」を中心に所蔵資料からご紹介します。近世史の一端に、そして所蔵する古典籍に気軽に触れる機会となれば幸いです。来場をお待ちしております。

展示概要

1. 漂流の背景

江戸時代に船の漂流が頻発した原因を、当時の専門書も交えて説明します。鎖国や廻船航路の発展という状況をもとに、内海航行に適した和船の特性と、近代的な航海術が船乗りには普及しなかったことを主な原因として取り上げます。



『浪華の賑ひ』

2. アジア地域への漂流

アジアに漂着するケースでは、鎖国下でも漂流民送還制度が維持されていた中国や朝鮮を経由して帰国する事例が見られる一方、フィリピンへの漂着では、スペインによる領有の前後で帰国までの道のりが大きく変化しました。朝鮮とフィリピン・バタン島への漂流体験を、漂流者本人が著した日記や、帰国後の聞書などを元に紹介します。



『船人漂流記』

3. ロシアを見てきた漂流民

18世紀後半、領土の拡張を進めるロシア帝国は日本航路の開発と通商にも関心を示し、日本近海にロシア船が頻繁に現れるようになっていました。そんな時代にアリューシャン列島に漂着し、ロシアの地を踏破して帰国した事例から、大黒屋光太夫で知られる「神昌丸」と、乗組員が世界1周を果たした「若宮丸」に関する資料を紹介します。



『環海異聞』

4. 太平洋を渡った漂流民

北西季節風の影響を受け太平洋岸で遭難した人々の中には、長期間の漂流を経て外国船に救助され、アメリカ大陸に上陸した者もありました。異国の文化に触れ、教育を受け、帰国後は日本と外国の架け橋となるべく活躍したジョン万次郎やジョセフ・ヒコをはじめ、様々な経路を辿り日本に戻ってきた彼らの漂流記を紹介します。



『海外異聞』



神戸大学は、1902(明治35)年の創立以来120周年を迎えます。これを機に、2030年に向けて、長期ビジョンとして「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」を目指して、進化・発展を続けてまいります。



11月1日から7日は、「教育・文化週間」です。本資料展も関連行事に登録されています。